

2009年3月期
第2四半期決算説明会

2008年11月4日
ヤマハ株式会社

2009/3期 2Q決算の概要



2Qの外部環境

- 7～9月の景況感は1Q時点より悪化
 - ・1Q時点では堅調だった欧州市場は、ドイツ、英国を中心に減速
 - ・国内携帯電話出荷台数、一段の減少
- 原材料価格に加え、電気、ガス等インフラ関連費用、輸送費等のコスト増加

2Q(7～9月)の状況

- 対前回予想(8/1発表)、前年同期とも減収減益
- 売上高は、対前回予想4.1%(55億円)の減収。為替影響(+12億円)を除けば、前回予想に対し5.0%(67億円)の実質減収。
対前年同期では、事業譲渡影響(▲74億円)、為替影響(▲42億円)を除いた実質ベースで、4.8%(67億円)の減収
- 営業利益は、対前回予想 37億円の減益。為替影響(+7億円)を除けば、実質44億円の減益。減収が主因

上期の状況

- 対前年同期、減収減益
- 売上高は、事業譲渡影響(▲143億円)、為替影響(▲91億円)を除いた実質ベースで、前年同期比2.6%(68億円)の減収
- 営業利益は、前年同期比 37.4%(80億円)の減益。減収に加え、原材料コスト等の上昇、為替損(8億円)、退職給付債務の利差損の発生(10億円)等による

2009/3期 上期業績



▶ 対前年同期、前回予想(8/1発表)減収減益

(億円)

	08/3 (上期) 実績	09/3 (上期) 実績	前年 同期比	09/3 (上期) 前回予想	予想比	(2Q) 実績	(2Q) 前期
売上高	2,807	2,505	▲10.7%	2,560	▲2.1%	1,273	(1,455)
営業利益 (営業利益率)	213	133 (5.3%)	▲37.4%	170	▲21.6%	77	(140)
経常利益 (経常利益率)	216	133 (5.3%)	▲38.5%	165	▲19.5%	75	(141)
当期利益 (当期利益率)	308	44 (1.7%)	▲85.8%	75	▲41.7%	33	(76)

為替レート

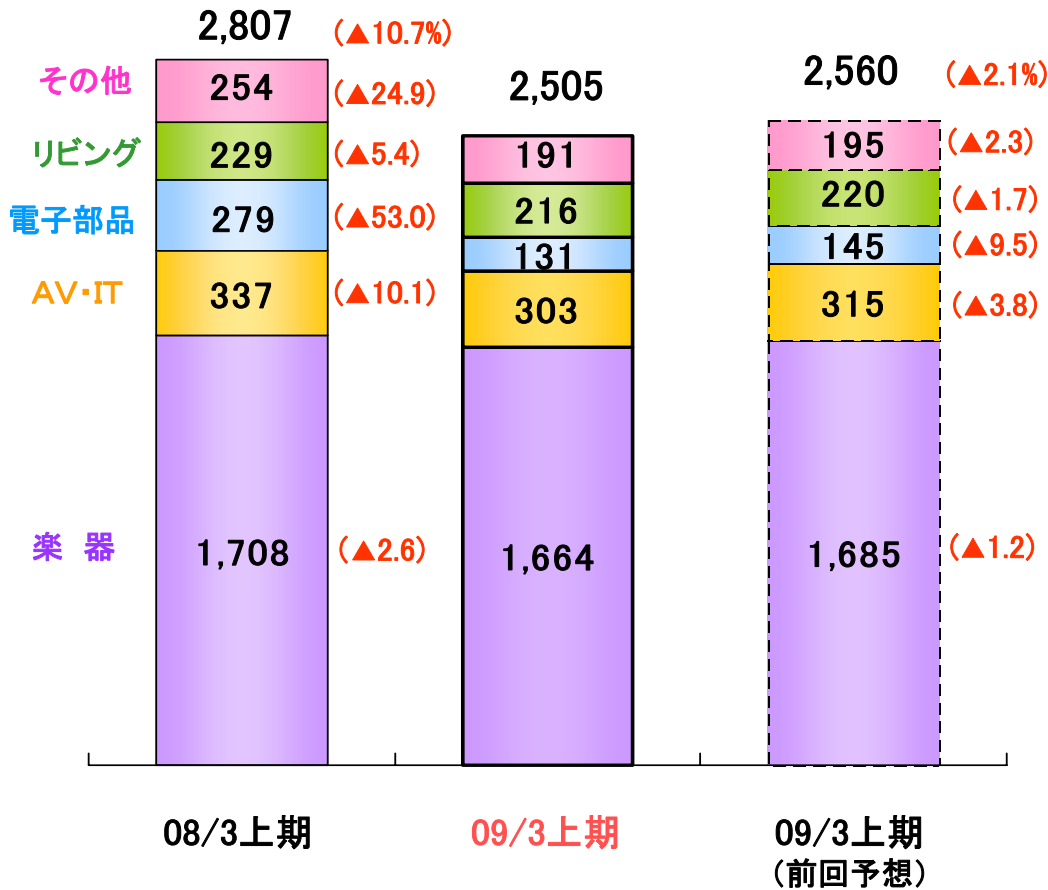
(円)

売上高	US\$	119	106	105	108	(118)
	EUR	162	163	161	162	(162)
利益	US\$	120	106	104	108	(119)
	EUR	158	157	158	158	(160)

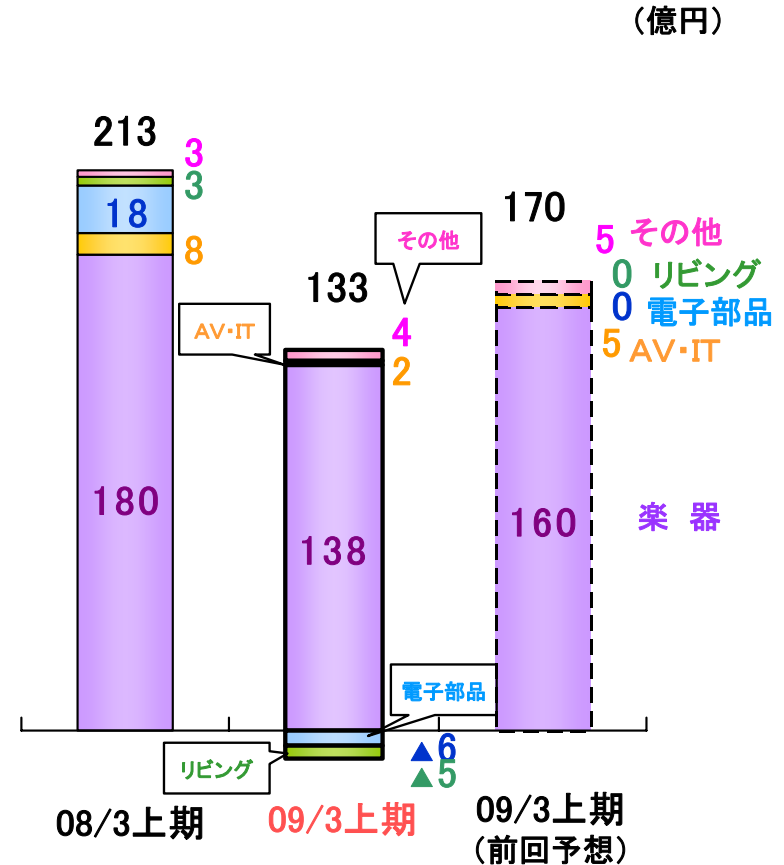
2009/3期 上期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲91億円
(楽器▲71億円、AV・IT▲17億円、半導体▲2億円)
また、前回予想との比較では+12億円
(楽器+9億円、AV・IT+2億円)

前年同期との比較での為替影響は▲8億円
(楽器▲7億円、AV・IT▲2億円、半導体+1億円)
また、前回予想との比較では+7億円
(楽器+6億円、AV・IT+1億円)

*08/3期の電子部品には、電子金属を含む

下期の事業環境

- マクロ経済環境の更なる悪化
 - ・日米欧を中心に、個人消費減速
 - ・法人向けビジネス受注減少
(自動車関連部品、携帯電話関連、アミューズメント関連等)
- 急激な円高の進行
- 原油、エネルギー、輸送費等の高止まり

通期の業績見込み

- 対前期、対前回予想(8/1発表)減収減益を見込む
 - ・販売減少、在庫適正化に伴う減産幅の拡大
- 当期利益は、税効果影響で税負担が増加し、対前回予想大幅減益の15億円を予想
- 業績改善施策の推進
 - ・経費の削減、コストダウン
 - ・設備投資、研究開発の見直し
 - ・減産、在庫処分等による在庫管理の徹底

2009/3期 通期業績予想



▶ 通期売上高、利益を再下方修正

(億円)

	08/3実績			09/3予想			伸び率	(前回予想)
	上	下	計	上	下	計		
売上高	2,807	2,681	5,488	2,505	2,375	4,880	▲11.1%	(5,330)
営業利益 (営業利益率)	213	115	328 (6.0%)	133	12	145 (3.0%)	▲55.9%	(305)
経常利益 (経常利益率)	216	110	326 (5.9%)	133	▲3	130 (2.7%)	▲60.1%	(285)
当期利益 (当期利益率)	308	88	396 (7.2%)	44	▲29	15 (0.3%)	▲96.2%	(165)

為替レート

(円)

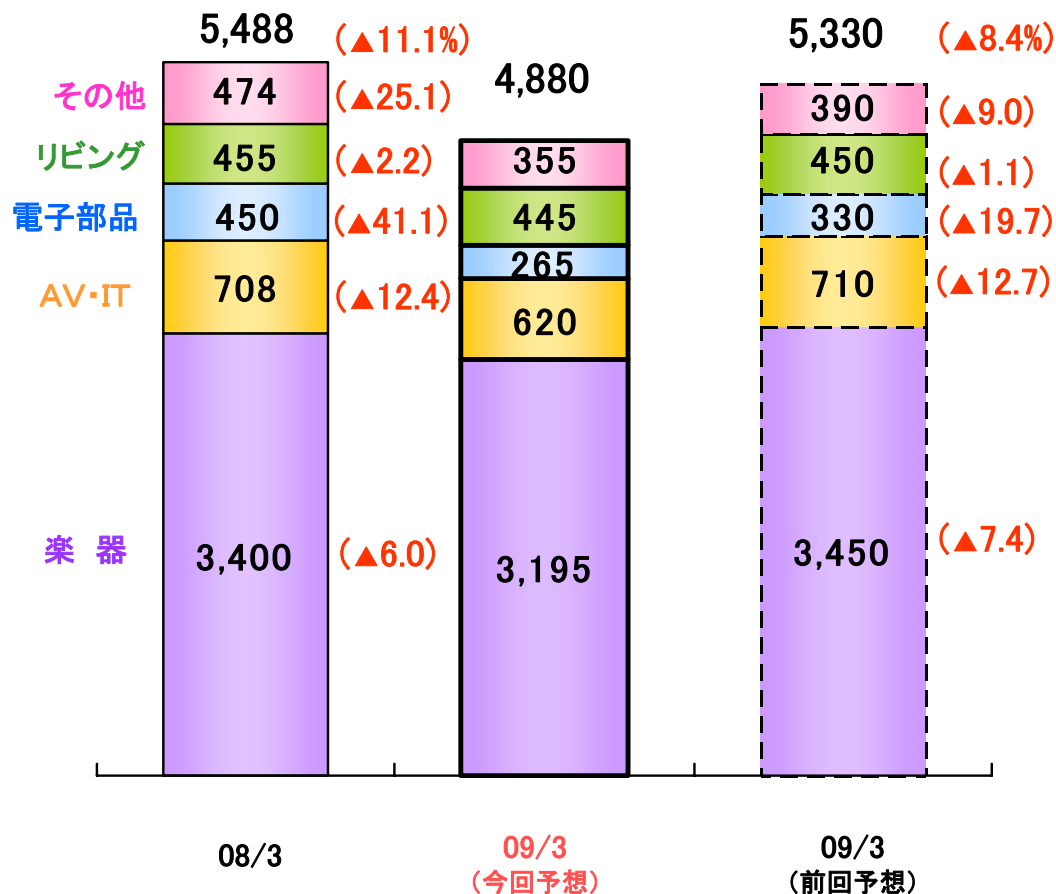
売上高	US\$	119	109	114	106	95	102	105
	EUR	162	161	162	163	120	145	161
利益	US\$	120	111	116	106	95	101	105
	EUR	158	159	159	157	150*	154	159

※下期のEURは 約76%を159円で売り予約済み。24%は120円を前提

2009/3期 通期事業別業績予想



売上高

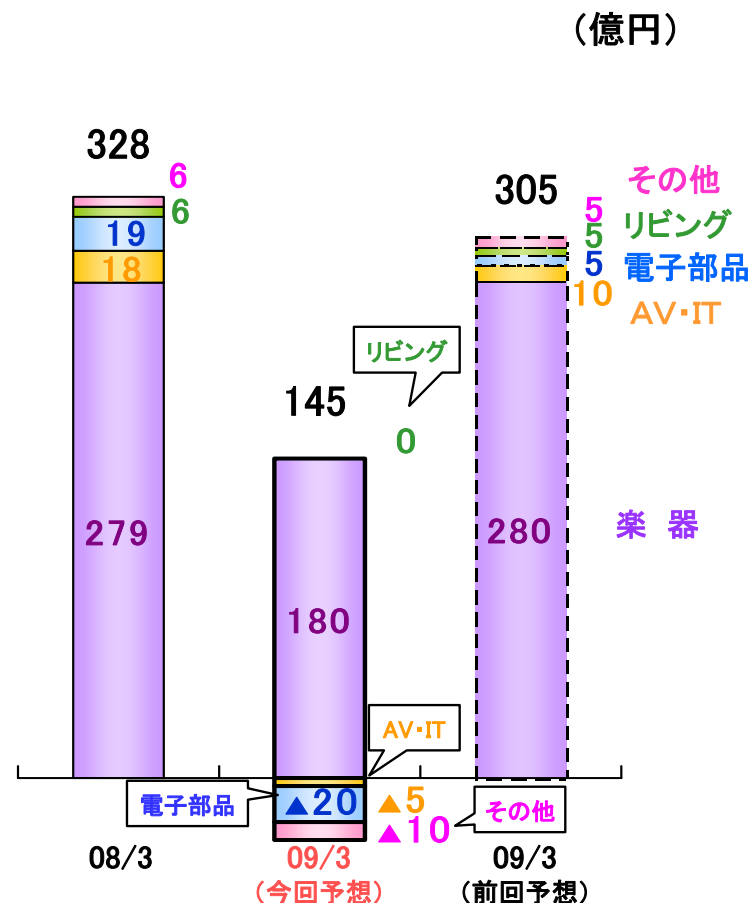


()内は前期比
または
前回予想比

前期との比較での為替影響は▲359億円
(楽器▲272億円、AV・IT▲83億円、半導体▲4億円)
また、前回予想との比較では▲211億円
(楽器▲158億円、AV・IT▲53億円)

*08/3期の電子部品には、電子金属を含む

営業利益



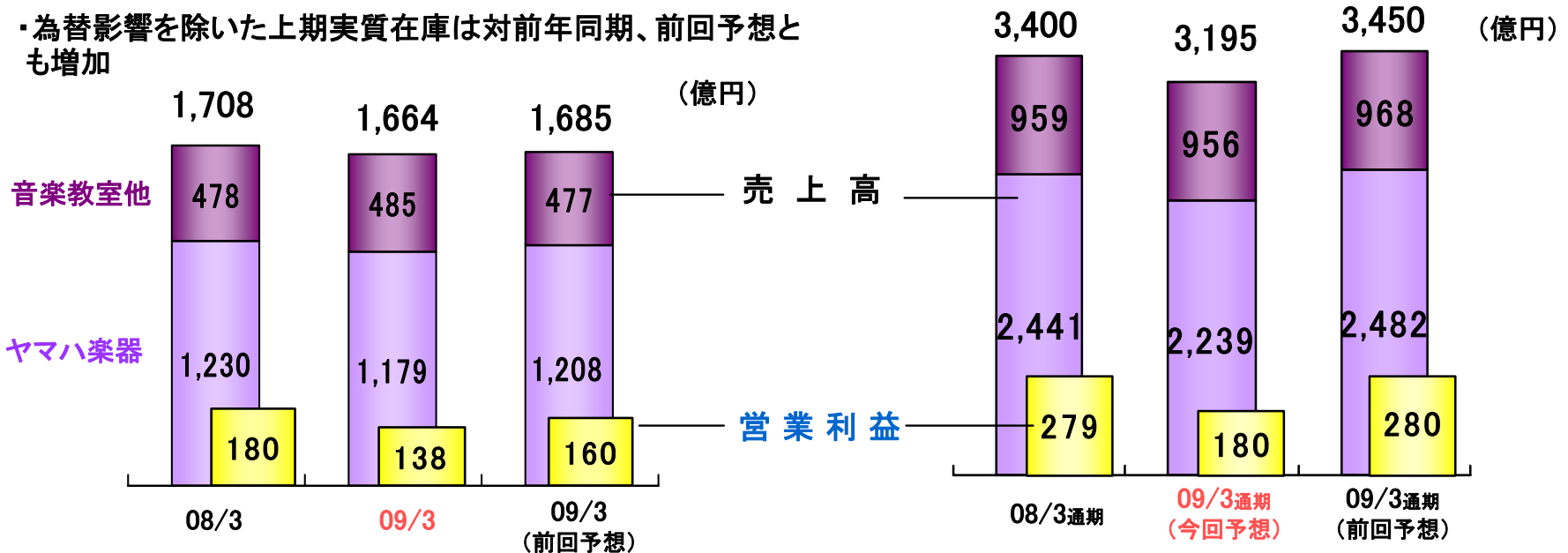
前期との比較での為替影響は▲67億円
(楽器▲72億円、AV・IT+4億円、半導体+1億円)
また、前回予想との比較では▲29億円
(楽器▲33億円、AV・IT+4億円)

上期の状況

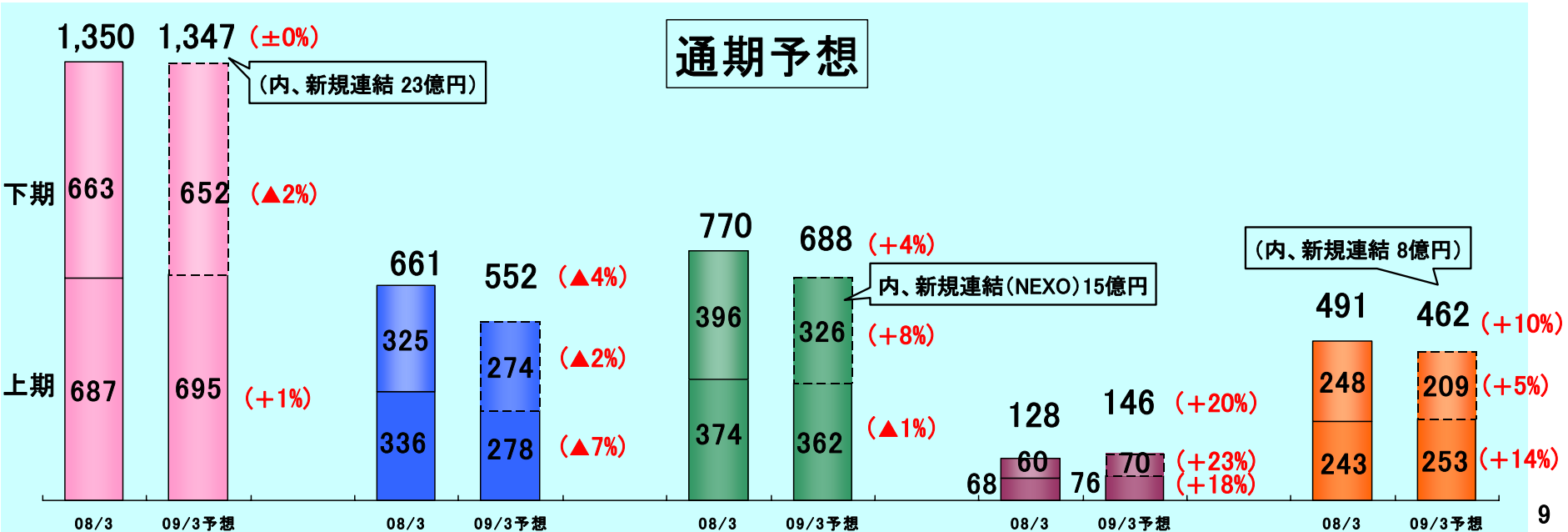
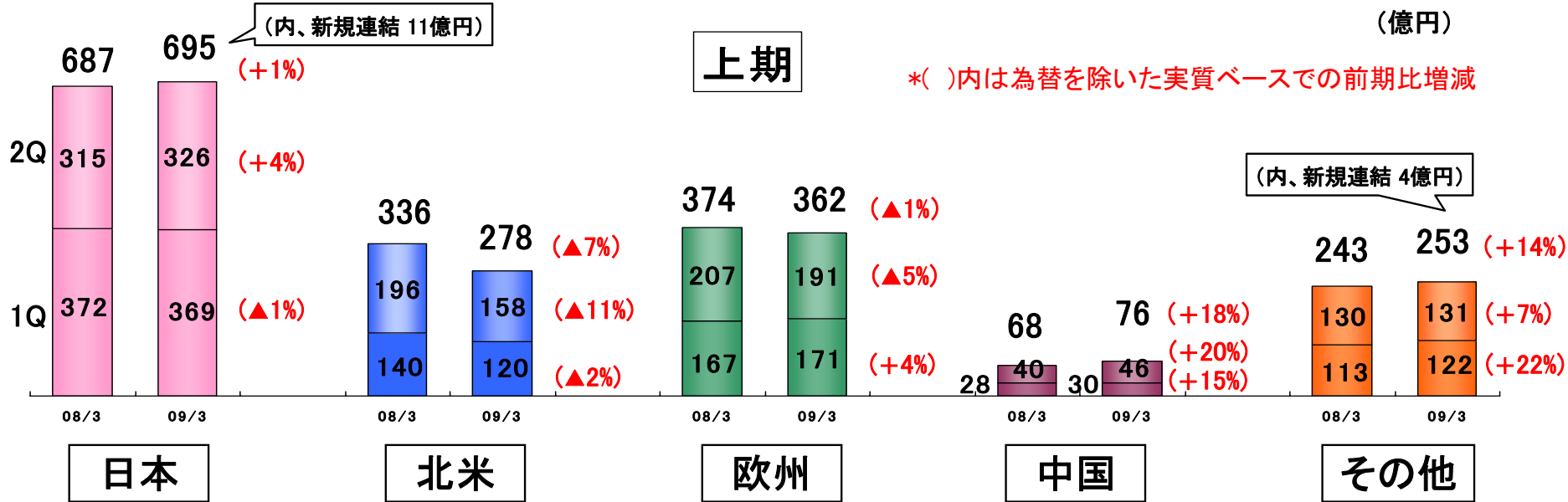
- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比1.6%(27億円)の増収(うち、新規連結15億円)
- ・北米市場では対前年同期で実質減収、中国を含めた新興市場は増収。
前回予想に対しては、北米、欧州が実質減収
- ・商品別には、ギター、電子ドラム、PA機器が対前年同期、前回予想とも増収。
一方、ピアノが国内、北米を中心に苦戦継続
- ・営業利益は、為替損、原材料価格等のコストアップ、退職給付債務の利差損の発生等で対前年同期減益。
前回予想との比較では、減収とコスト増により計画未達
- ・為替影響を除いた上期実質在庫は対前年同期、前回予想とも増加

通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期では前回予想に対し減収減益の計画
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結47億円を含め前期比2.0%(67億円)の増収計画
- ・営業利益は、円高に伴う為替損、原材料価格等の上昇、退職給付債務の利差損、のれん償却負担等で前期比減益
- ・欧米年末商戦に合わせた新商品の確実な市場導入と拡販
- ・新興市場(中国、中南米、東欧等)での拡販
- ・コストダウンと経費削減実施による損益改善



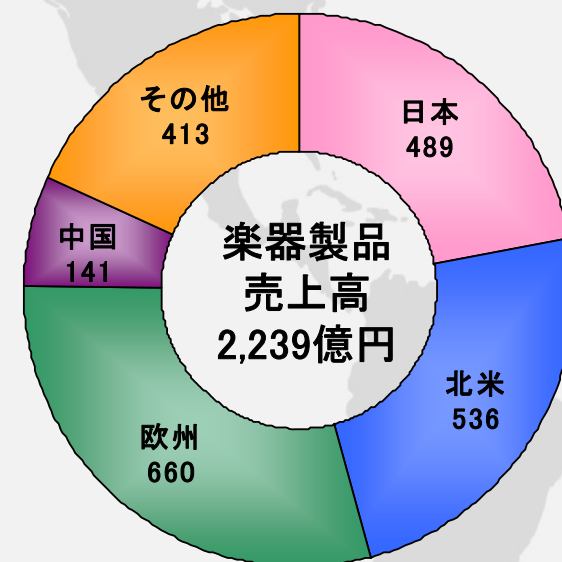
楽器事業(地域別の販売状況)



楽器製品売上高の地域別販売状況

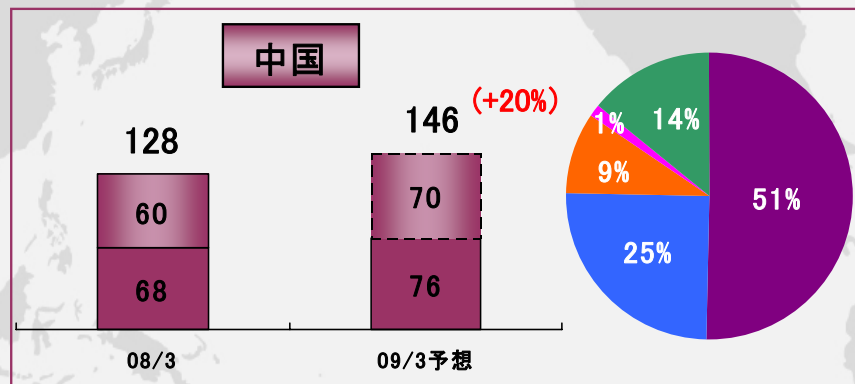
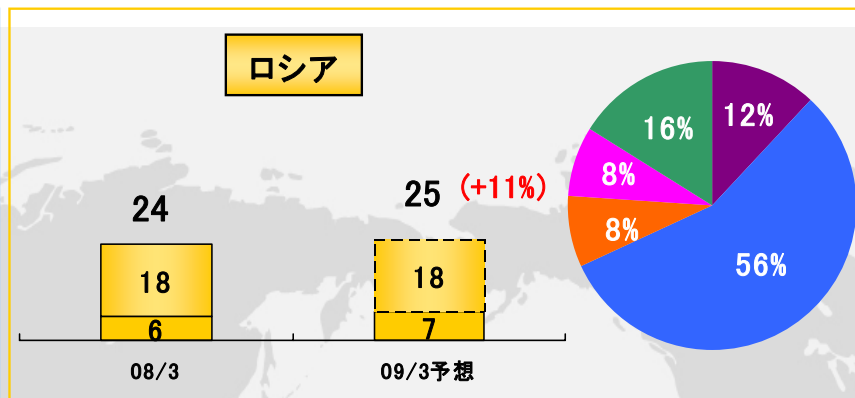
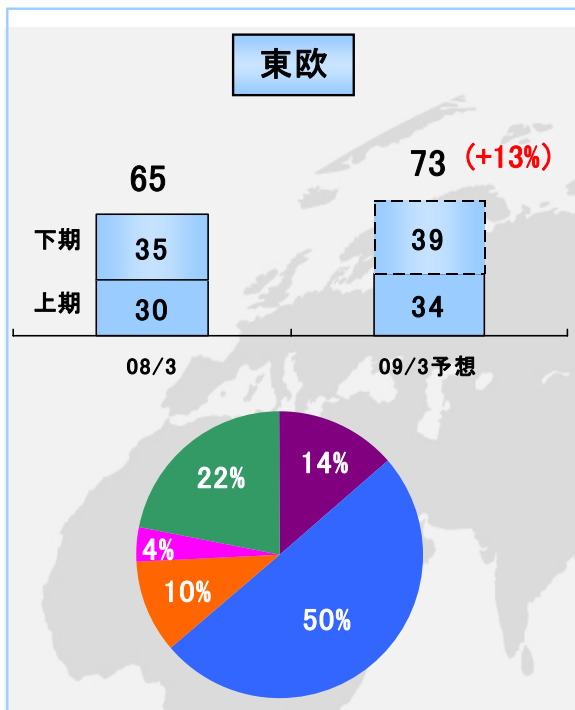
楽器地域別状況	
日本	大型鍵盤楽器(ピアノ・エレクトーン)が不調。 通期では新商品を投入したデジタルピアノでキャッチアップを図るも、前期実績確保は難しい状況。
北米	住宅不況、金融不安からピアノなど大型・高額商品の苦戦続き、トータルでは前期割れとなる見込み。その中で、管楽器・ギターは堅調。 PA機器もデジタルミキサーが牽引し、前期並みをキープ。
欧州	上期では、東欧を含む新興市場で増収となったが、西側成熟市場の減速で欧州全体では対前年同期ショートとなる。 商品では管楽器とシンセサイザーが苦戦。
中国	売り上げの約半分を占めるピアノの販売網構築が進み、前年同期比3割増と好調。 ポータブルキーボード、管楽器、PA機器が一桁成長に止まるという要素はあるものの、全体では20%成長を維持する計画。
その他の地域	世界経済の減速、為替動向の懸念はあるものの、アジア、中南米、中東の各地域で成長基調を継続。 ロシアの現地法人オペレーション開始、インドも現地法人を設立。

楽器製品売上高の地域別内訳

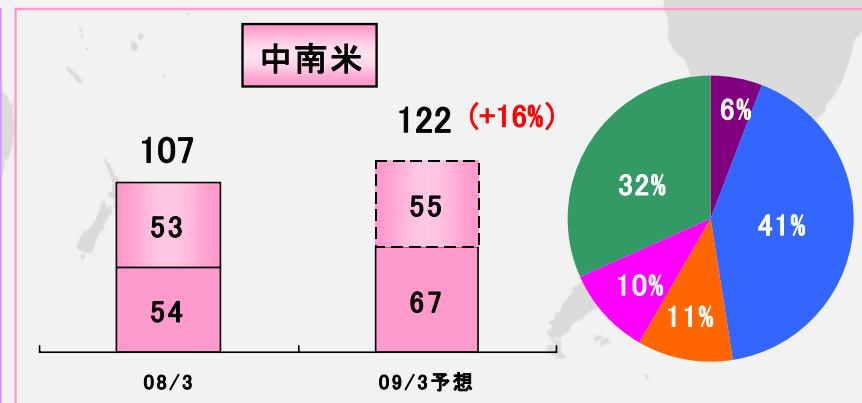
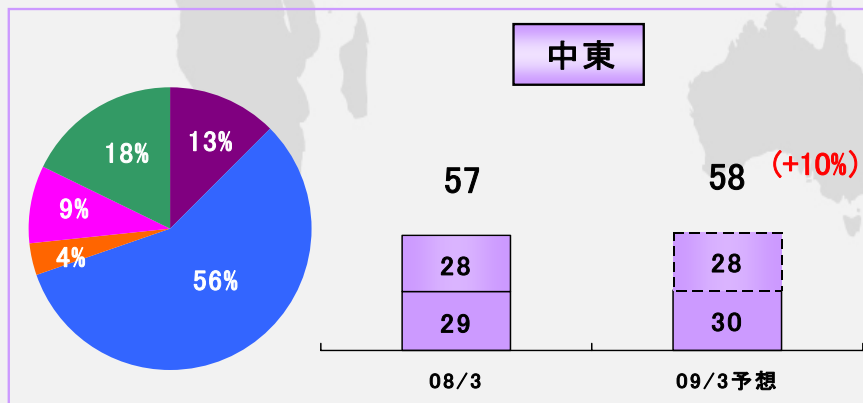


新興市場の販売状況

(億円)



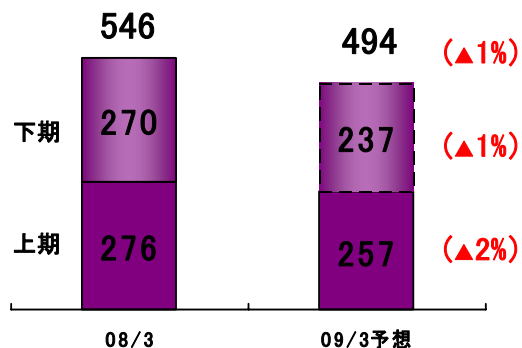
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



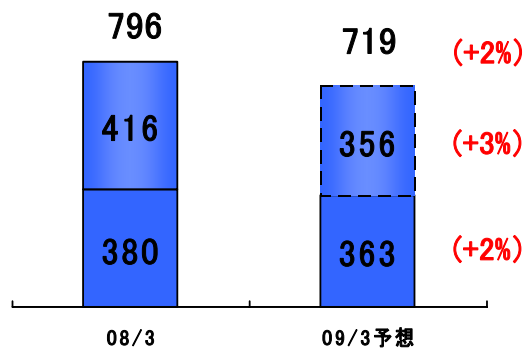
楽器製品売上高の商品群別販売状況



(億円) ピアノ

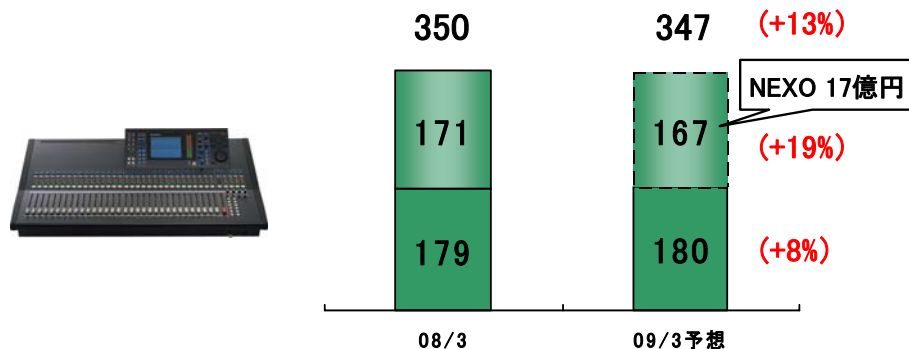


電子楽器

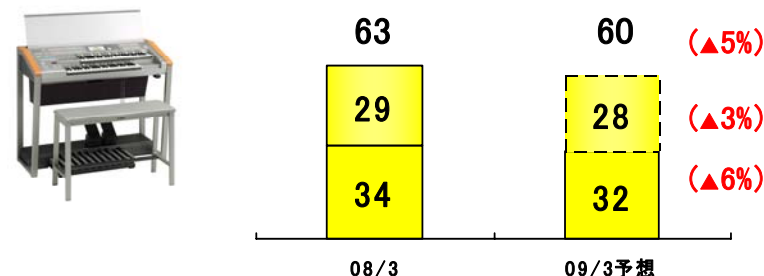


*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

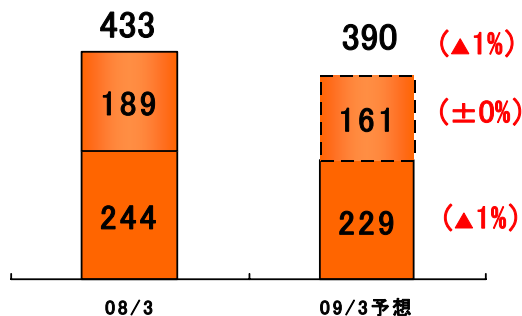
PA機器



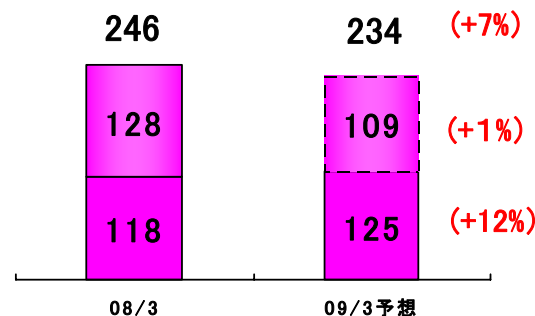
エレクトーン



管楽器



弦打楽器



楽器事業(商品群別の販売状況)



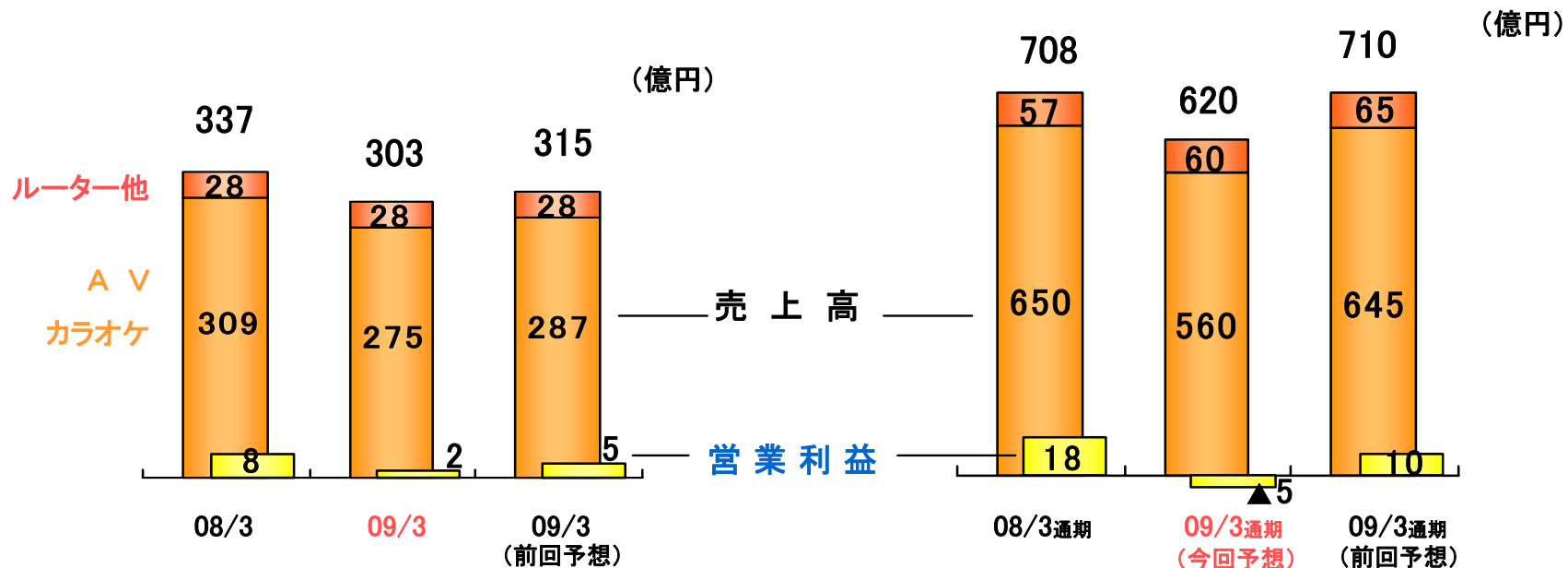
商品群別販売状況	
ピアノ	日米の市場冷え込みに加え、欧州も景気減速で、先進国市場は苦戦が続く。一方、中国を筆頭としたアジア、中南米、中東で販売を伸ばし、全世界計の販売台数は増加の見込み。
電子楽器	上期では、クラビノーバ新商品CLPシリーズの発売開始などでデジタルピアノが対前年同期増で推移したが、北米のマス販売網でのポータブルキーボード取り扱い縮小や、昨年新商品を発売したシンセサイザーの2年目苦戦があり、全体では減収となる。またエレクトーンも前年同期減となる。
管楽器	北米での販売は堅調を維持するものの、欧州での販売が鈍化。高級品は概ね堅調に推移しているが、普及価格帯がスロー。
ギター・ドラム	北米を中心に欧州、アジアでアコースティックギターが好調。エレクトリック・アコースティックギターも期待通り伸長。アコースティックドラム苦戦するも、電子ドラムでカバー。
PA機器	景気減速の中、納入物件の減少や規模縮小が見られるが、主力デジタルミキサーは堅調。

上期の状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比5.0%（17億円）の減収
- ・営業利益は、減収とユーロ安に伴う為替損もあり、対前年同期減益
前回予想との比較では、減収に伴い減益
- ・上期末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、ほぼ前年同期並みの水準

通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期売上高を下方修正。減産に伴う操業損もあり、営業赤字の予想
- ・年末需要期でのAV商品拡販
フロントサラウンドシステム強化拡大
AVレシーバー拡販
i-Podドックスピーカー等デスクトップオーディオの市場導入
HiFiオーディオ強化
- ・会議システムは引き続き、認知度向上と販路開拓に注力

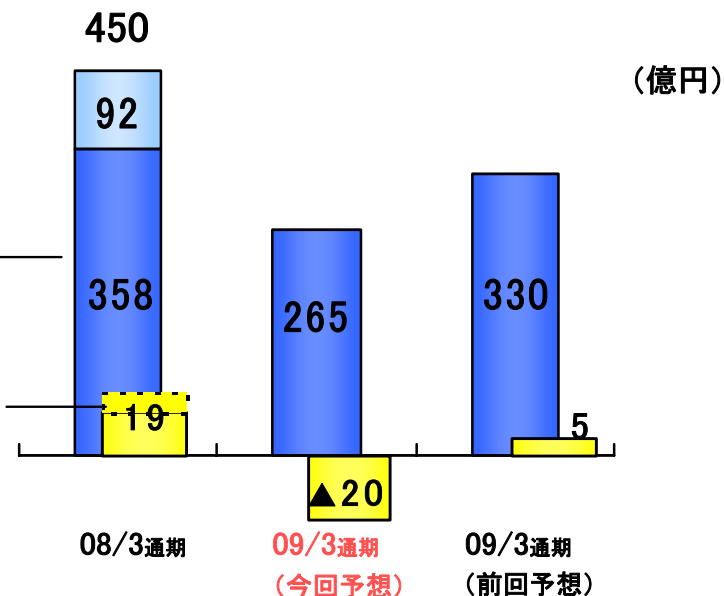
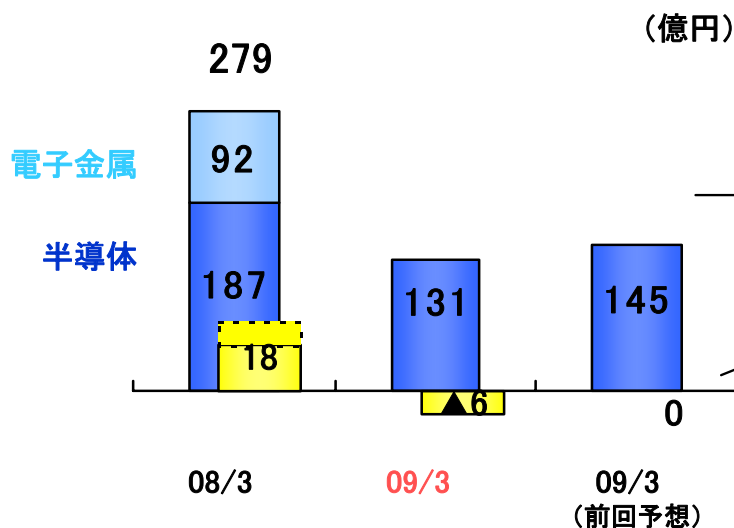


上期の状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益。
- ・携帯電話用音源LSIの需要減少、アミューズメントLSI市場の低迷等により、対前年同期大幅な減収。
前回予想との比較では、国内携帯電話販売の減少による需要減で計画未達

通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも前回予想を大幅下方修正
国内携帯電話用音源LSIおよびアミューズメントLSIの需要減少が主因
- ・デジタルアンプ拡販
- ・シリコンマイクの量産軌道乗せ

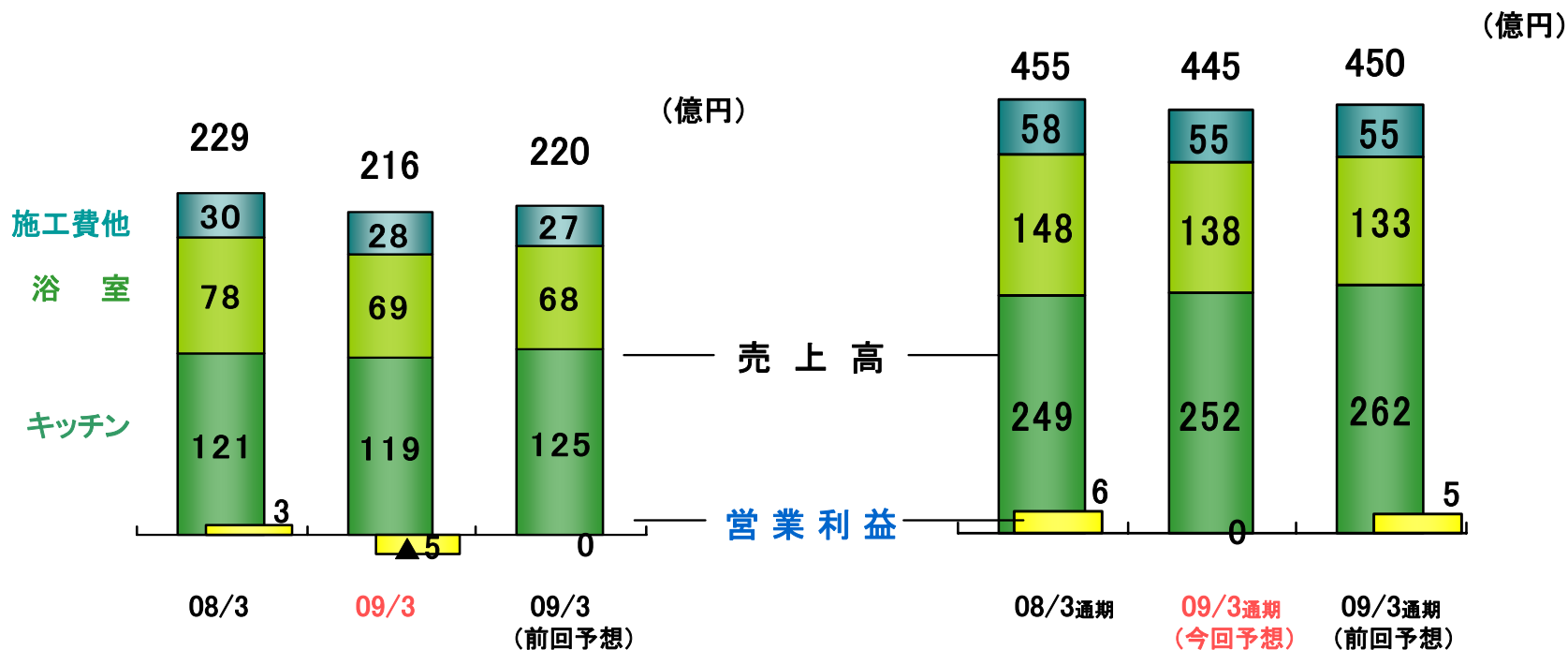


上期の状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・新築住宅着工数は、8月以後、前年同期比で上向くものの、引き続き低調
- ・2Q(7~9月)のキッチン売上高は、ほぼ前年同期並み。浴室は引き続き対前年同期減収
- ・上期のリフォーム比率は、ほぼ前年同期並みの23%
- ・営業利益は、販売単価ダウンに伴う売上総利益率の低下で、対前年同期、前回予想とも減益

通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期売上高、営業利益を下方修正
- ・販路開拓、ショールーム展開によるリフォームビジネス強化継続
- ・強みとする人造大理石訴求により、システムキッチン拡販
- ・経費削減と生産工程合理化による製造コストダウン推進



その他の事業

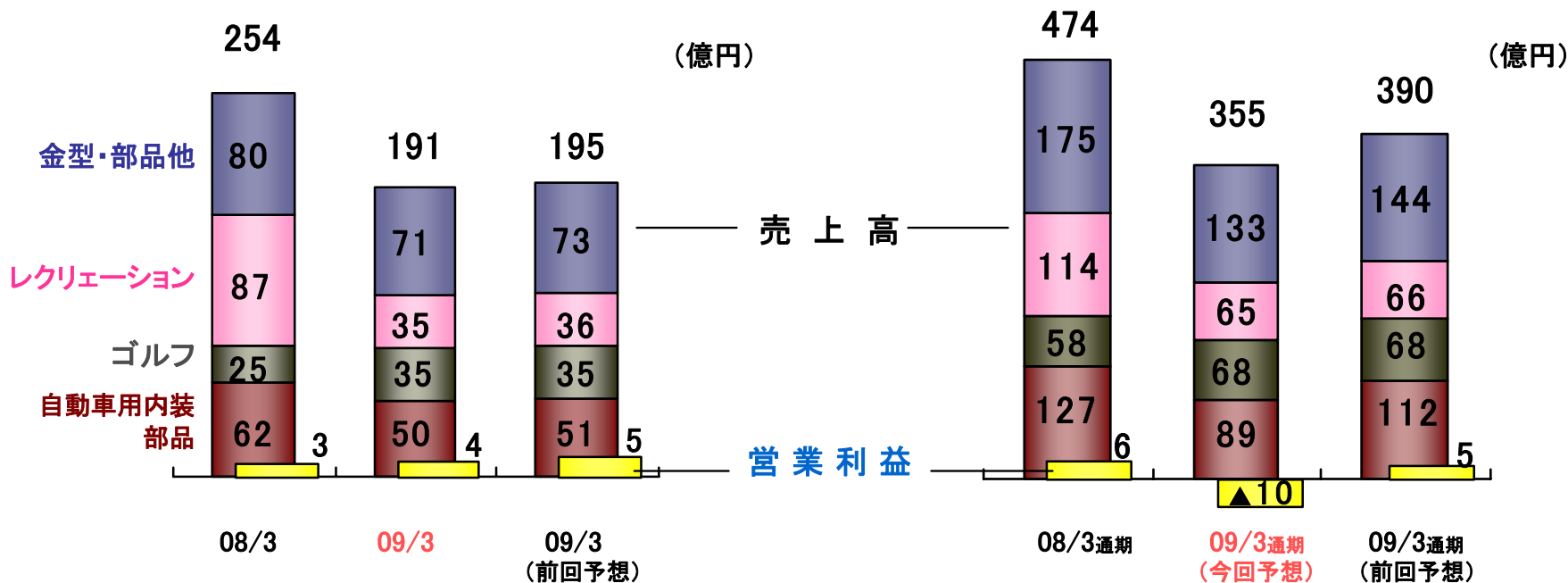


上期の状況

- ・レクリエーション事業は、前期に実施した一部施設の譲渡に伴い、対前年同期で大幅な損益改善
- ・自動車用内装部品は、完成品メーカーの減産により、対前年同期大幅な減収
- ・マグネシウム部品は、歩留まり改善に遅れ
- ・ゴルフは、国内、アジア市場とも好調継続

通期の状況と 下期の重点施策

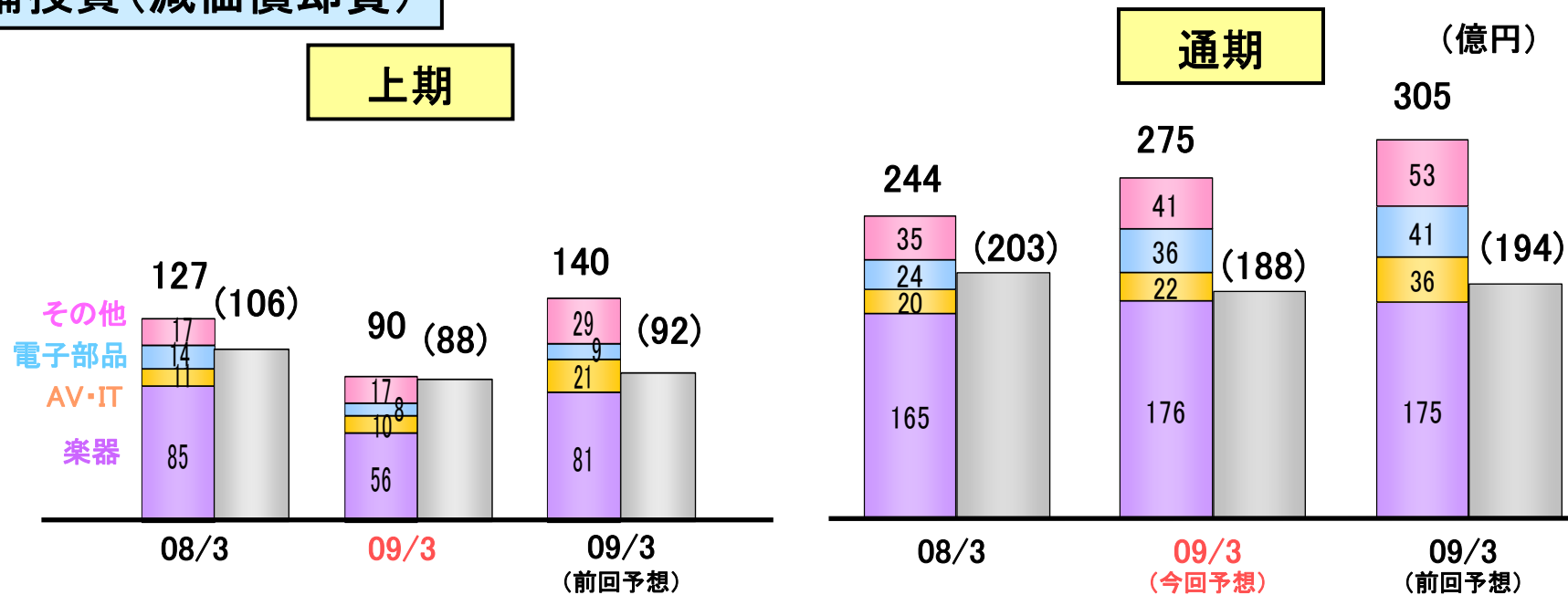
- ・自動車用内装部品は一段の受注減で、前回予想を下方修正
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品とも、引き続き歩留まり向上による製造原価の低減に注力
- ・レクリエーションは食材、エネルギーコスト高はあるものの、集客確保とコスト削減努力により収益改善を目指す



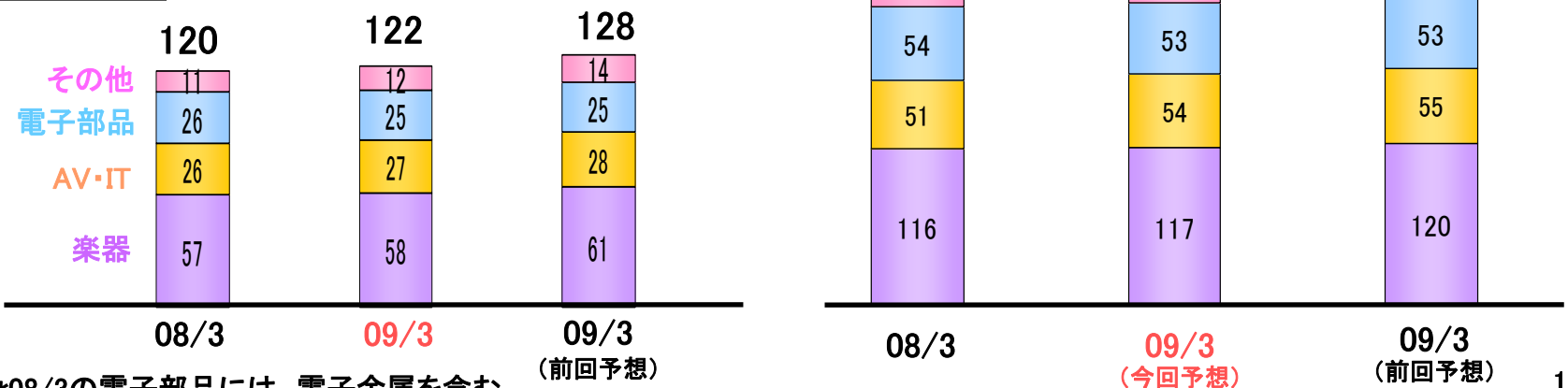
設備投資・減価償却費/研究開発費



設備投資(減価償却費)



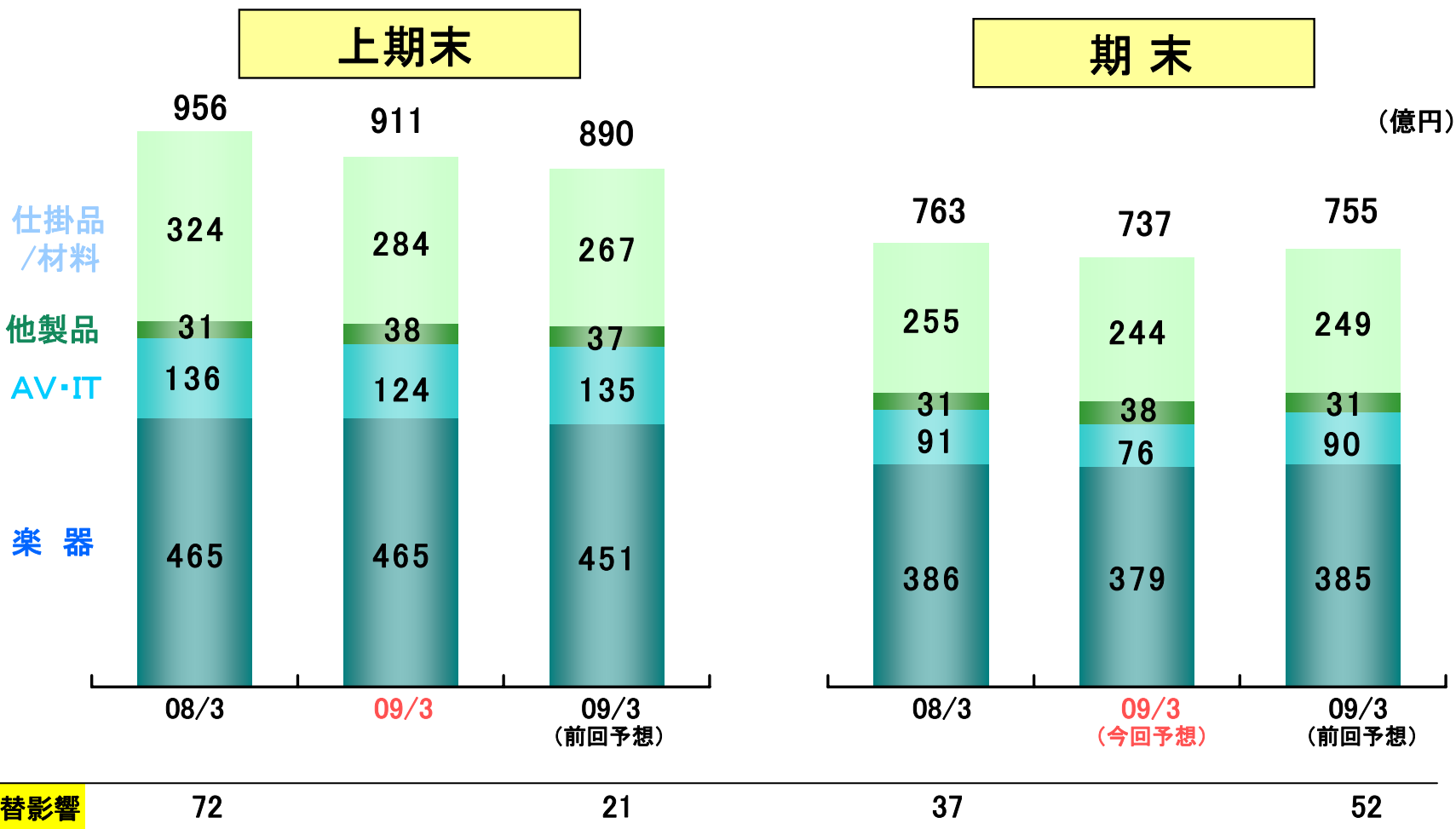
研究開発費



*08/3の電子部品には、電子金属を含む。

棚卸資産

- 9月末総在庫は対前年同期45億円の減少。
(事業譲渡した電子金属在庫および為替影響を除けば実質79億円の増加)
- 前回予想に対しては、為替影響を除けば、実質42億円の増加



予想貸借対照表



	上期末			期末予想		
	07/9末	08/9末	増減	08/3末	09/3末	増減
現預金	958	624	▲334	1,040	458	▲582
売上債権	871	724	▲147	651	650	▲1
棚卸資産	956	911	▲45	763	737	▲26
他流動資産	308	253	▲55	303	305	2
固定資産	3,276	2,489	▲787	2,646	2,612	▲34
資産計	6,368	5,001	▲1,367	5,403	4,762	▲641
仕入債務	460	379	▲81	350	357	7
借入金	369	305	▲64	210	227	17
リゾート預託金	178	169	▲9	170	169	▲1
他負債	1,527	1,011	▲516	1,243	1,021	▲222
純資産計	3,833	3,137	▲696	3,430	2,988	▲442
負債純資産計	6,368	5,001	▲1,367	5,403	4,762	▲641

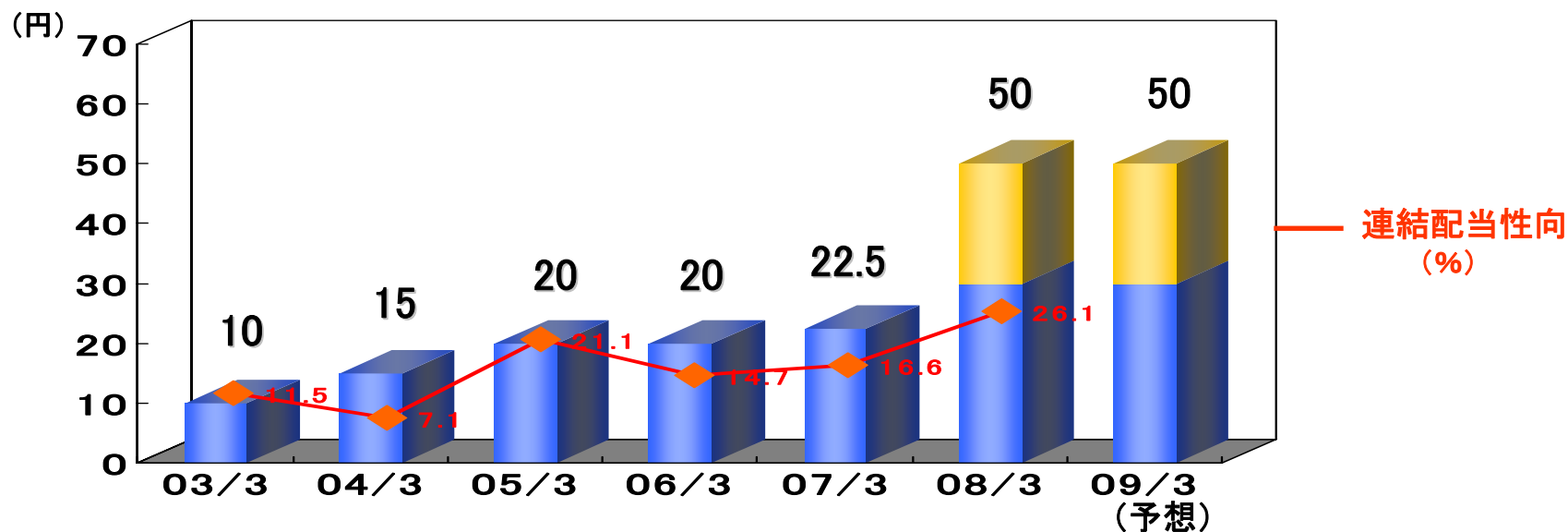
※現預金残高には譲渡性預金を含む

株主還元



配当

- 継続的かつ安定的な配当を基本に、連結配当性向40%を目標に、更なる利益還元に努める
- 09/3の配当は、年50円(通常配当30円、特別配当20円)を予定



自社株買い

- ・取得株数 約9百万株
- ・取得額 180億円

* 2008年6月30日にて消却済み

付属資料

2009/3期 上期営業外損益、特別損益



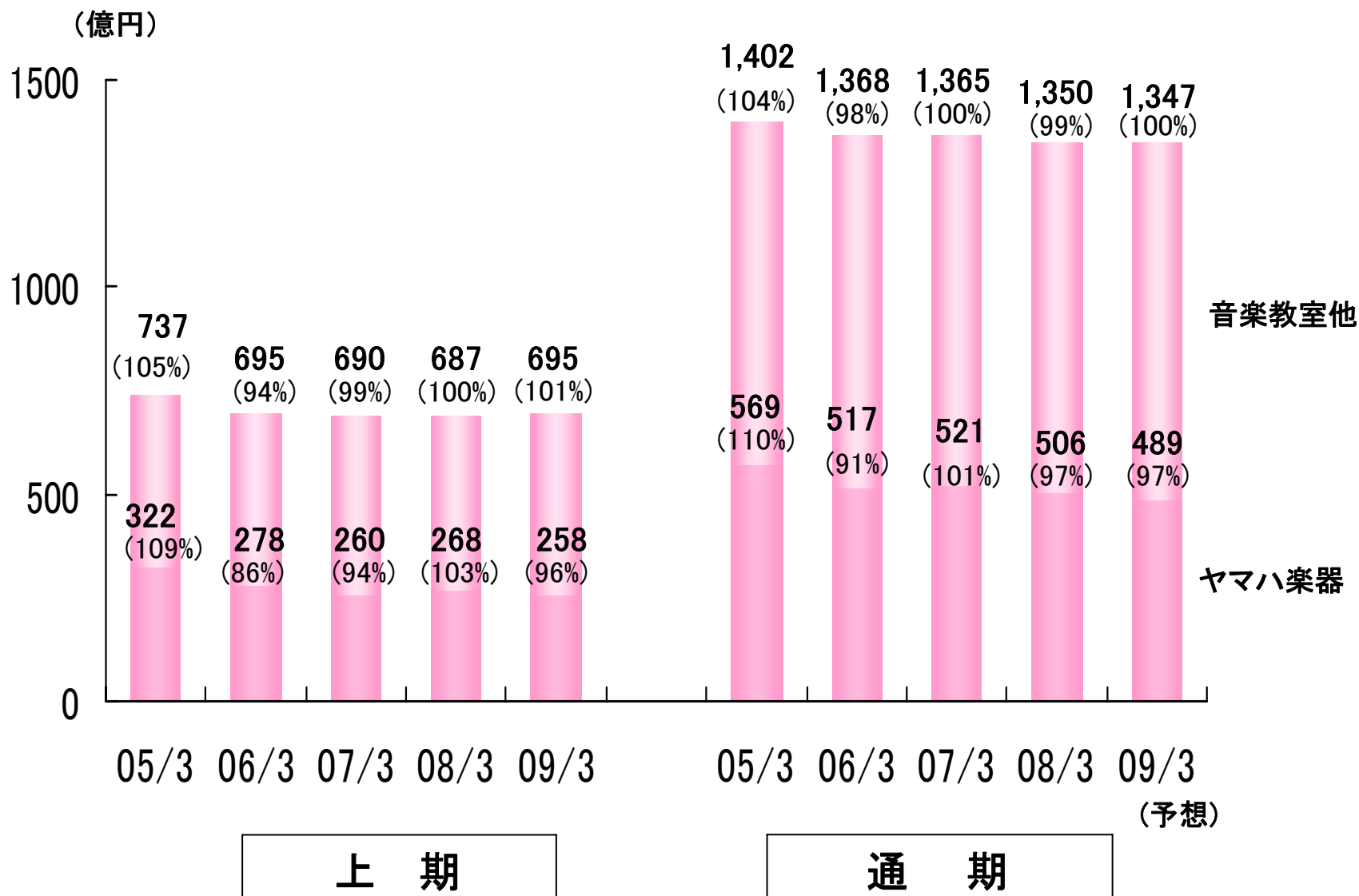
	08/3(上期)実績	09/3(上期)実績	09/3(上期)前回予想
			(億円)
営業外損益			
金融収支	18	16	15
その他	▲15	▲16	▲20
計	+3	0	▲5
特別損益			
固定資産処分損益	9	▲3	▲4
その他	273	▲1	▲1
計	+282	▲4	▲5
ヤマハ発動機株式売却益 278			
法人税他			
法人税等	299	39	62
法人税等調整額	▲114	45	22
少数株主利益	5	1	1
計	190	85	85

2009/3期 通期営業外損益、特別損益



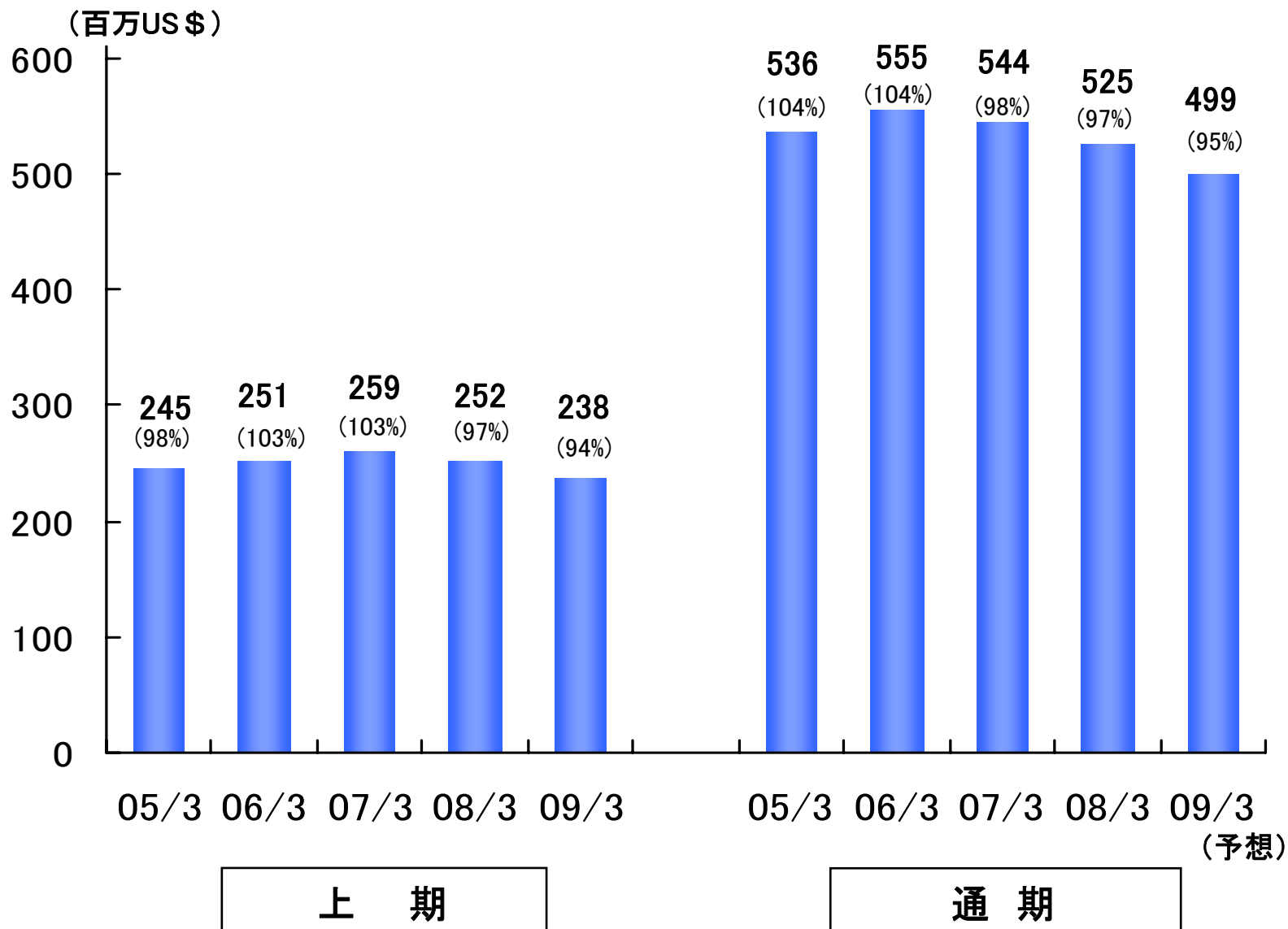
	08/3実績	09/3今回予想	09/3前回予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	29	24	21
その他	▲31	▲39	▲41
計	▲2	▲15	▲20
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・ヤマハ発動機配当金 17 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・ヤマハ発動機配当金 17 </div> </div>			
特別損益			
固定資産処分損益	8	▲7	▲7
その他	291	2	▲3
計	+299	▲5	▲10
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・ヤマハ発動機株式売却益 278 ・特別退職金 ▲8 </div> </div>			
法人税他			
法人税等	175	44	79
法人税等調整額	47	63	27
少数株主利益	7	3	4
計	229	110	110

日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

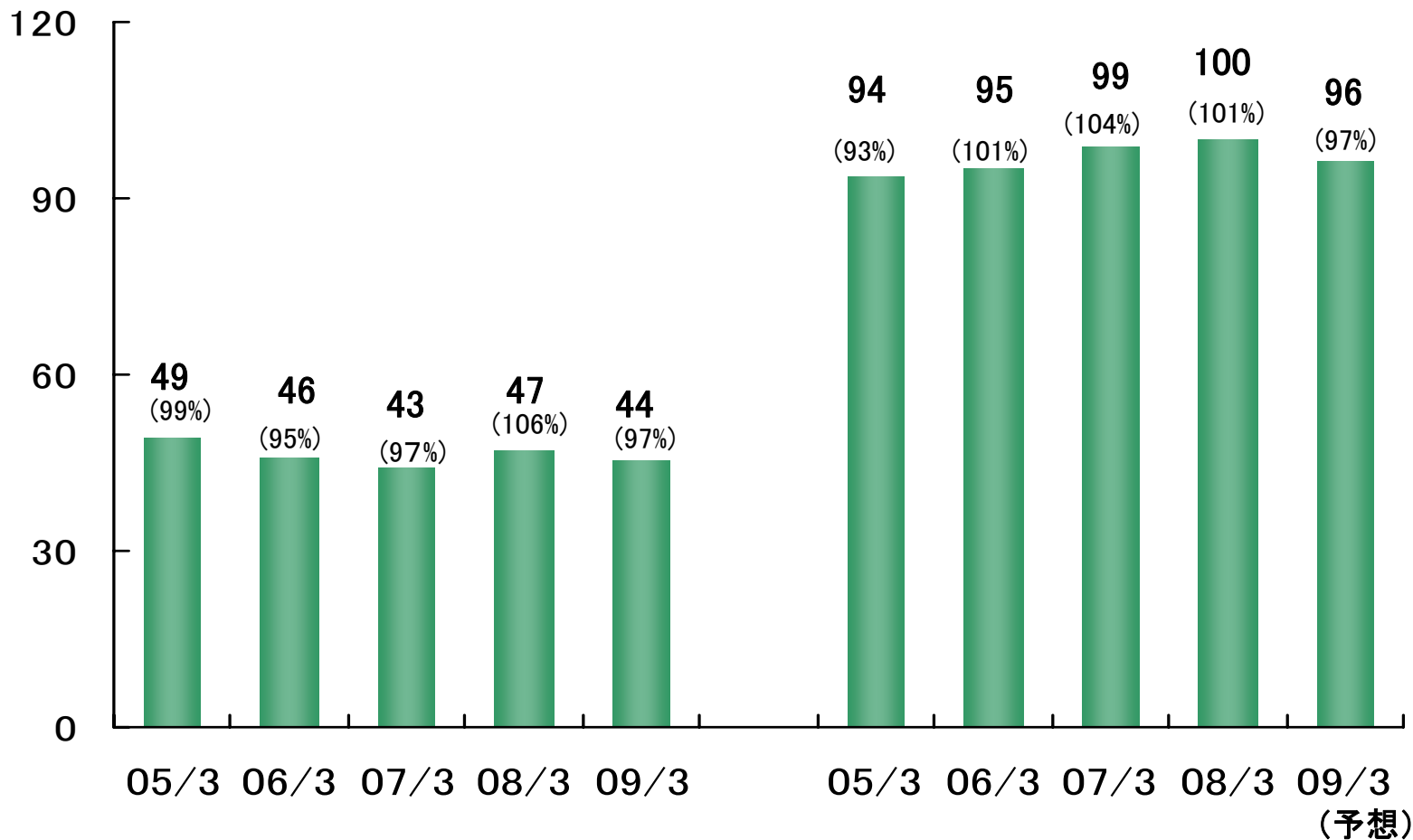
アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万ユーロ €)

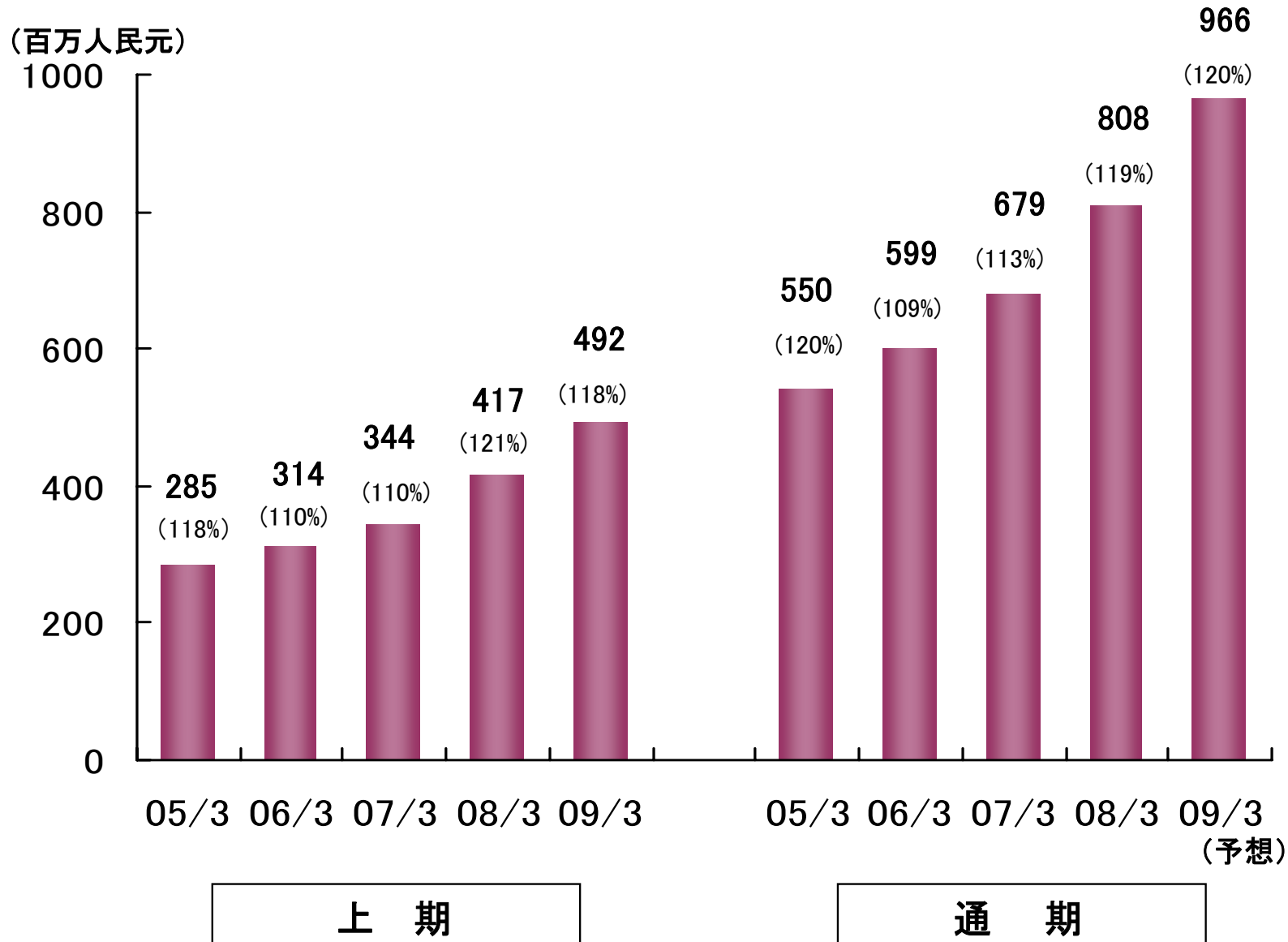


上 期

通 期

()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。